令和6年(2024年)9月26日(木)
長万部高等学校

第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和6年9月25日(水) 18:00~19:00

場所：北海道長万部高等学校 芸術教室他

参加者：16名

運営委員9名

赤塚 顕爾 様、小野 雄二 様、亀田 純孝 様、岸上 尚生 様、斉藤 和博 様、
佐藤 望美 様、高野 陽子 様、辰巳 治典 様、丹羽 輝久 様

オブザーバー2名

近藤 英隆 様、柴野 貴史 様

長万部高等学校5名

土屋 靖雅 校長、樋口 智一 教頭、沢瀬 久美子 教務部長、

松谷 良子 教務部副部長、沼田 優太郎 教諭(地域連携担当教諭)

全体会 18:00~18:30

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 学校概要について

資料説明

4 協議事項について

(1) 徒募集の観点で、ご意見をいただきたい

(2) 地域との連携：イベントで終わるのではなく継続したもの、活動をとおして自己の
在り方生き方を考える。学校でできないことを地域の方も仲間として、
全体で生徒をどう育成するか。

(3) 現状の共有

ア 学校経営方針について

育成を目指す資質・能力の検証 協働学習について

イ 地域連携校について

遠隔授業 T-base

連携校であっても募集停止、閉校になる。

20名を2年連続して切ったので、連携校だが再編留保校になってさらに3年目
が経過している。現在の中学2年生の入学時点で5年が経過する。留保の期間
は、生徒募集に努力する期間であり、20名を超えると留保はリセットされる。

ウ 個別の学校説明会の実施について

黒松内、八雲、森中に現状説明。

5 諸連絡

地域連携部会と学力向上部会は合同で実施

楽メ登録のご案内

6 閉会の言葉

7 部会

◎探究部会

生徒募集について

- ・より部活動に魅力を感じてもらうために、チームスポーツにおいて他校と合同チームを組める環境を整備する必要があるのではないか。
- ・長万部中学校の生徒の中には「新しいコミュニティの中で学校生活を送りたい」と考え、町外へ進学を決断する者が一定数いる。その視点で考えると、長万部中学校ではなく町外の中学校へのPR活動をより強めると入学者増加に繋がるのではないか。
- ・制服代、通学代無償などは保護者としては嬉しいが、生徒は大きなメリットを感じていないのではないか。より生徒が惹きつけられる要素を増やす必要がある。
- ・他校にはない特殊なカリキュラムを組んでみることも一つの手。他校の例だと「ドローン」や「メイク講座」「SNS講座」などが挙げられる。
- ・地域との繋がりは年々増えてきているため、そのことを外に発信する広報活動（主に道新）も必要ではないか。
- ・地域の特性を活かし、理科大生との繋がりを強め、「長万部高校に来たら理科大生と〇〇できる」活動を考案すべきではないか。
- ・進学費用を「国公立」だけでなく「私学・専門学校」も町に一部負担してもらえると魅力に繋がるのではないか。

◎地域連携・学力向上部会

生徒募集について

- ・小中のCSと高校のCSは違い、高校のCSは熟議されていない。協議会と協議会のために時間をとって熟議できる時間を作ってもいいのでは？
- ・小中のCSは懇親会を実施している。小中、中高の交流が大事である。
- ・コロナ前は理科大生が黒松内の子どもに教えに行っていた。高校生と中学生が勉強できるように、学習文化センターの研修室を無料で借りたい。
- ・中学生は吹奏楽が強いところを選択する傾向にある。部活動の数、友達に引っ張られて進学、大きい町で勉強したいと思う生徒が多い。
- ・総合的な探究の時間等において、先生方は一生懸命やってくれている。道新の道南版に出る長万部の情報は町外になかなか届いていない。まずは広報を利用して町民に現状を知ってもらう必要はある。
- ・長万部⇄黒松内間のJRがなくなったら学校が終わるのではないか。新幹線で盛り上がるとしている時に高校がなくなるのはまずい。
- ・北大合格、プロ野球選手のニュースがあって黒松内町が少し盛り上がっている。地域との関わりが増えているので、長万部の魅力の一つではないか。
- ・見学旅行の行き先、制服の検討をしてもいいのではないか。

- 進路の情報をもっと提供してもいいのではないか。